

安全進塁権 (神戸市少年団北地区 2018年5月)

打者が安全に進塁できる場合

次の場合、打者には1個の安全進塁権が与えられ、アウトにされるおそれなく一塁へ出塁できる(公認野球規則 5.05(b))。このとき占有する塁を明け渡さなければならない(フォースの状態にある)走者にも1個の安全進塁権が与えられ、その次の塁まで安全に進塁できる。

- ① 四球が宣告された場合。この場合はボールインプレイであり、打者や走者は、走塁死を賭してさらに進塁を試みてもよい。
- ② 死球が宣告された場合。この場合はボールデッドであり、打者及びフォースの状態にある走者のみが1個だけ進塁できる。
- ③ 捕手やその他の野手が、打者を妨害した場合(打撃妨害)。打者を妨害した捕手や野手には失策が記録される。ただし、打撃妨害にもかかわらず、打者が投球を打ったときは、ひとまずプレイを続行し、プレイが一段落したところで処置を決める。
- ④ 審判員または走者が、フェア地域で野手に触れていない打球に触れた場合(守備妨害)。打者には安打が記録され、打球に触れた走者は守備妨害でアウトになる。ただし、投手を除く内野手の股間や真横を通過した直後の打球に走者が触れた場合で、他の内野手が守備する機会がないと判断されたものを除く。

走者が安全に進塁できる場合

次の場合、走者には安全進塁権が与えられ、アウトにされる恐れなくその数だけ進塁することができる(公認野球規則 5.06(b)(4))。ここで走者には打者走者を含むが、打者と打者走者は区別される必要があるので注意しなければならない。下に示す場合の走者に打者を含む場合には、特に説明を加える。

本塁(4個の安全進塁権)が与えられる場合

- ① 打球がインフライトの状態フェアゾーンからプレイングフィールドの外へ出た場合(柵越え本塁打)。
- ② 柵越え本塁打となるであろうと審判員が判断した打球が、観衆や鳥、野手が投げつけたグラブや帽子などに当たって落下したり進路が変わった場合。

3個の安全進塁権が与えられる場合

- ① 野手が帽子やマスク、グラブやミットなどを本来の位置から離してフェアの打球に故意に触れさせた場合。この場合はボールインプレイである。なお、投げつけても、打球に触れなければそのままプレイ続行である。打者の記録は三塁打となる。

2個の安全進塁権が与えられる場合

- ① 野手が帽子やマスク、グラブやミットなどを本来の位置から離して送球に故意に触れさせた場合。
この場合はボールインプレイである。なお、投げつけても、送球に触れなければそのままプレイ続行である。
- ② フェアの打球がバウンドしてプレイングフィールドの外へ出た場合、または一度野手が触れて進路が変わった打球が、ファウル地域のスタンドに入った場合。または、フェンスやスコアボード、木などにはさまった場合。この場合はボールデッドである。打者の記録は二塁打となる。
- ③ 送球が、スタンドやベンチなど（野手がそれ以上追えない場所）に入ってしまった場合。この場合はボールデッドになる。この場合、安全進塁権を認める基準となる塁は、悪送球が、打球を処理した直後の内野手の送球である場合は投球当時に占有していた塁、それ以外の場合は野手の手からボールが離れたときに占有していた塁となる。ただし、打球を処理した直後の内野手の送球であっても、すでに打者走者を含む全ての走者が1個以上進塁している場合は、野手の手からボールが離れたときに占有していた塁を基準とする。
- ④ 投手から2塁に投げた牽制球が、ホームランラインを超えボールデッドとなる箇所に入った場合。
この場合はボールデッドになる。(ローカルルール)

1個の安全進塁権が認められる場合

- ① 野手が帽子やマスク、グラブやミットなどを本来の位置から離して投球に故意に触れさせた場合。
この場合はボールインプレイであり、投球に触れたときの走者の位置を基準に、1個の塁が与えられる。
- ② 投手がボークを犯した場合。
- ③ 投手の打者への投球、または1塁又は3塁に行った牽制球が、スタンドまたはベンチなど、ボールデッドとなる箇所に入った場合。この場合はボールデッドになる。投手板を外して行った牽制球の場合も1個の安全進塁権とする。(ローカルルール)
打者への投球が捕手を通過した後、または牽制球が塁を守る野手を通過した後、さらに捕手や野手に触れたうえでスタンドまたはベンチに入り、ボールデッドになった場合には、投球(送球)当時に占有していた塁を基準に、2個の安全進塁権が与えられる。第4ボール(四球)または第3ストライク(三振)にあたる投球がこの状態になったときは、打者にも二塁が与えられる。
- ④ 第4ボールまたは第3ストライクにあたる投球が、球審や捕手のマスクや用具に挟まって止まった場合。この場合は打者にも一塁が与えられる。
- ⑤ 野手が、打者が打った飛球を捕らえた後、スタンドやベンチなどボールデッドとなる箇所に踏み込んだり、倒れ込んだ場合。この場合は打者はアウトとなり、ボールデッドになる。走者全員に1個の安全進塁権が与えられるが、投球当時の占有塁へのリタッチの義務は消滅しない。ボールデッドとなる箇所に入り込んで捕球をすることは認められない(捕球してもファウルボールとなる)。ボールデッドラインの基準は線の外側とし、片足が完全にラインを踏み越した場合にボールデッドとする。少しでもラインに足が掛かっているならばインプレーと認める。(ただし両足共)